

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
1	川崎市立殿町小学校	須山 佳代子

学校教育目標		学校経営の目標(中期目標)		今年度の重点目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>健康で、心情豊かな子</li> <li>人を尊重し、協力できる子</li> <li>自分で考え、工夫する子</li> <li>勤労を愛し、進んで働く子</li> <li>地域に親しみ、地域を愛する子</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○全教育活動を通して「自主・自立」「共生・協働」の心を育む。</li> <li>・個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努め確かな学力を育む。</li> <li>・健康な心と体を育成し、安心・安全な学校をつくる。</li> <li>・学校と家庭や地域が連携し、地域とともにある学校をつくる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分から進んで、やりきる(自主・自立)</li> <li>・自らの力で考え、目標に向かって粘り強く取り組む態度の育成</li> <li>・学ぶことの楽しさや意義が実感できる「分かる」授業づくり</li> <li>・「個に応じた指導」「協働的な学び」の一層の充実</li> <li>・健康・安全・防災への意識の向上</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○みんなでよくなる(共生・協働)</li> <li>・人権尊重教育を基盤とした、よりよい人間関係づくり</li> <li>・気持ちのよい挨拶や言葉が通い合う温かい学校づくり</li> <li>・将来の社会的自立に向けて必要な能力や態度の育成</li> <li>・地域の教育力や学習環境を活用した特色ある教育活動の推進</li> </ul>	
評価項目		具体的な取組		成果と課題		具体的な改善策	
1	自分の力で考え、目標に向かって粘り強く取り組む態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善に向けて、算数科を中心とした授業研究を推進する。</li> <li>・主体的に判断して学習活動を進め、他者と協働し、粘り強く考え解決しようとする資質・能力を育てるために、課題解決的な活動や体験活動等を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数科を中心とした授業研究では「問いをつかもう じっくり考えよう 豊かに伝え合おう」をテーマに実践してきた。児童アンケートでは「授業の内容が分かるまで、あきらめずに取り組んでいますか」という質問に対し9割近くの児童が「あてはまる」「ややあてはまる」と答えている。課題に対して、粘り強く考え解決しようとする姿勢が身に付いている。</li> <li>・本やGIGA端末を活用することももちろん、地域の学習協力者に尋ねる、講師の話や聞くなど、自分の課題に応じて必要なことを調べたり、調べたことを整理しまとめたりする活動を大切にできた。児童が課題解決に意欲的に取り組み、必要な情報を比較したり分析したりしながら、相手意識をもって発信できるような授業づくりに努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業が変われば児童も変わることを実感している。育成する資質・能力を明確にした学習指導計画と、児童の意欲を引き出す課題や授業展開が学習の質を高める鍵となる。今後も授業改善を進めるために、学年会や教科部会、校内授業研究会等での情報共有を意図的・計画的に行う。</li> <li>・今年度実施した地域を題材とする学習を学習指導計画に反映するとともに、各教科等の単元・題材を相互に関連付けた配列を工夫する。市制100年に関する事業も活用して、自分が暮らす町に愛着をもち、課題解決のために自ら動き出そうとする児童を育てる。</li> </ul>			
2	学ぶことの楽しさや意義が実感できる「分かる」授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の基盤となる言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む)、問題発見・解決能力等を確実に育成するために、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図る。</li> <li>・学校司書と連携して読書環境の充実を図り、豊かな心や人間性、教養、創造力等を育む読書活動を推進するとともに、学習における学校図書館の利活用を促す。</li> <li>・児童の学習習慣を確立するために家庭と連携し、学習課題や学習計画の立て方等の共有を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの学習においても「話す・聞く」「書く」活動を積極的に取り入れ、言語能力の育成に努めた。児童が日常的にGIGA端末を活用する姿が見られ、情報モラルに関する指導を計画的に行いながら実践力を育てることに心掛けた。</li> <li>・読書タイムを復活させ、毎週木曜日の朝は全校で本に親しむ時間とした。しかし、児童アンケートでは読書の習慣が身に付いていると答えた児童が少ないことが課題である。</li> <li>・学習習慣の確立を目指し、見直しと振り返りを大切にした授業づくりや家庭での学習が習慣化するような課題の提示に努めた。家庭の協力を得ることにより、児童の学習習慣が少しずつ定着してきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実生活で生きて働く言語能力を育むために、自分の考えを伝えたり友達の考えを受け止めたりする機会を一層充実する。</li> <li>・学校司書と連携して魅力ある学校図書館づくりを推進するとともに、身近に本を置くことを習慣付け、学年の発達の段階に応じた読書記録を工夫するなど、児童がより自覚的に読書に取り組むように働きかける。</li> <li>・GIGA端末は家庭学習と授業をつなぐツールとしても有効である。学習を振り返る課題、次の学習の見直しをもつための課題など、習熟を図るとともに明日の授業が楽しみになるような家庭学習を目指したい。</li> </ul>			

3	<p>「個に応じた指導」「協働的な学び」の一層の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ティームティーチング、少人数指導、専科指導、交換授業等により、一人一人に応じたきめ細かな学習指導及び教員の協力指導體制を充実させる。</li> <li>・GIGA端末を活用して各教科等の学びをつなぐとともに、人とつながることを通して課題解決に取り組むことにより、学びの質の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各担任が児童の学習状況を把握することに努め、個に応じた指導を心掛けた。少人数指導やティームティーチング、専科指導は3年生以上で実施し、低学年は級外教員や教育サポーターが支援しながら、きめ細やかな指導に努めた。支援教育コーディネーターや国際教室担当を中心に児童の教育的ニーズに合わせた支援を行った。また、保護者の思いや願いに応え、支援教育コーディネーターを中心に、取り出し・入り込みの学習指導を実施した。理科支援員、教育サポーター等を計画的に配置し、学習支援の効果を高めることができた。</li> <li>・GIGA端末を活用することで、自分が書いたコメントや作成したシートなどを学級内で瞬時に公開し合うことが可能となり、情報共有の頻度が格段に上がった。友達の多様な考えを知ることにより、自分の考えを広げたり深めたりすることにつながっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、担任が児童の学習状況の把握や他の教員との情報共有に努め、個に応じた指導の充実を図る。さらに、少人数指導や交換授業も学年に応じて積極的に取り入れていき、授業の質の向上に努める。また、児童の教育的ニーズに合わせて、支援教育コーディネーターや国際教室担当を核とし、取り出し・入り込み等の支援を継続していく。理科支援員、教育サポーター等の活用も、学習支援の一環として有効活用できるよう行っていく。</li> <li>・今後も他者との協働や、体験を通して学ぶことを一層重視する。かわさきGIGAスクール構想ステップ3のキーワードとして掲げられている「つながる」の実現を目指し、友達との考えの共有や学び合いはもとより、学びの自己調整や学びの蓄積にもつながる、GIGA端末の効果的な活用を図る。</li> </ul>
4	<p>健康・安全・防災への意識の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の健康の保持増進に関する指導</li> <li>・食育の推進</li> <li>・体力の向上、進んで運動に親しむ資質・能力の育成</li> <li>・身の回りの生活の安全、交通安全、防災に関する指導</li> <li>・地域と連携した見守り活動</li> <li>・外部機関との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科や保健体育、特別活動の時間を活用し、バランスのよい食事や手洗いの大切さ等を指導した。担任だけでなく、栄養職員や養護教諭が授業に入ることで、さらに児童の健康に関する意識を高めることができた。</li> <li>・寒い季節でも屋外で体を動かす機会が増えるように、校庭で休み時間に使える用具を増やした。しかし、児童アンケートで休み時間に校庭に出て体を動かして遊んでいると答えた児童は7割にも満たない。運動への意欲を高めることが課題である。</li> <li>・安全な登下校や防犯訓練・防災訓練への意識は高く、95%以上の児童が取り組んでいると答えている。今年度は、不審者対応やわくわくプラザも参加しての避難訓練など、様々な状況下における対応を経験したことが、児童の意識の向上につながったと考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な立場の教職員の専門性を生かした学習指導を計画的に行うことにより、児童の心身の健康への意識を高める。日頃から声掛けを行い、児童の意識の継続を図る。</li> <li>・体力向上や運動の習慣化を目指し、校庭開放やキラキラチャレンジの取組と連携させて、休み時間の運動の推奨や体力づくりの計画を進めていく。児童が楽しみながら主体的に活動できるように、委員会活動や学級単位での取組を工夫する。</li> <li>・引き続き、様々な気象条件や時間帯、活動場面等を想定した防災訓練を実施し、児童が考えて行動できるように指導する。交通安全については、登下校の歩き方だけでなく、「こども110番」がある場所や意味を理解し、児童が自分の身を守る方法が身に付けられるようにする。</li> </ul>
5	<p>人権尊重教育を基盤とした、よりよい人間関係づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命を大切に作る心や人を思いやる心、規範意識等の道徳性を養うことができるよう、「特別な教科道徳」授業の充実と、実践意欲や道徳的態度を育む授業改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果測定を実施し、結果を学年で共有しながら、共生* 共育プログラムを通して、よりよい人間関係づくりにつながるよう図った。児童アンケートでは、「学校が楽しい」「グループ学習や係活動などのときに、協力して取り組むことができた」と答えた児童が9割で、人との関わりを楽しむとともに人を思いやる心が育まれていることがうかがえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共生* 共育プログラムを計画的に実施し、よりよい人間関係づくりにつながるよう取り組んでいく。また、道徳的实践意欲や道徳的態度を育むため、道徳教育推進担当者を中心に「特別な教科道徳」の授業づくりについて情報共有を行い、授業力の向上に努める。</li> </ul>
6	<p>気持ちのよい挨拶や言葉が通い合う温かい学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性を尊重し、いじめを許さない意識や、気持ちのよい挨拶や言葉遣いを身に付けることなどについて、児童会活動等における児童の自発的な取組を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートでは、9割近くの児童が挨拶ができていると答えている。誰とどのような挨拶をしたのかをカードに書いて「挨拶の木」に掲示する取組を児童会が進め、挨拶をしようとする意識を高めた。また「人が嫌な気持ちになるような言葉を使わずに、仲よく生活できましたか」という質問には8割以上の児童ができていると振り返っている。特別活動・学校行事等での活躍の場づくりに加えて、「特別な教科道徳」授業の実践が、児童の自己肯定感の高まりや人と関わる力につながったと考えている。しかし2割の児童は「あてはまらない」「あまりあてはまらない」と答えていることが課題と考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶や言葉遣いなど礼儀についての指導に努めるとともに、児童会活動を核とした児童の自発的な実践を見守り、継続できるよう支援する。「SOSの出し方・受け止め方教室」を継続し、嫌な思いをしたときの対応の仕方などを具体的に指導するとともに、児童が安心して相談できる環境を整える。</li> <li>・多文化共生と多様性を尊重する意識と態度を育成するために、所属する児童が国際教室を全校児童に紹介する取組を始めた。今後も、児童が違いを認め合い互いに尊重できるような場づくりを積極的に行う。</li> </ul>

7	<p>将来の社会的自立に向けて必要な能力や態度の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己肯定感や人と関わる力、社会に参画する資質・能力を高め、よりよい学校生活を築こうとする態度を育てるために、特別活動等で活躍する場を多く設ける。</li> <li>支援教育コーディネーターを核として全職員で児童理解を図るとともに、学校巡回カウンセラー等と連携して支援を必要とする一人一人へのきめ細かな指導及び教育相談を推進する。(取り出し指導や国際教室を含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年の発達の段階に応じて、よりよい学校生活を築くために自分ができることを考え、児童が意欲的に実践する場の設定や支援に努めた。委員会活動においては児童の発想を生かすとともに、新たな試みを可能とする弾力的な活動計画としたことにより、児童の充実感と自己有用感が高まった。</li> <li>毎月の児童支援部では、支援教育コーディネーターを核に学年ごとの情報交換及び共通理解を図った。支援を必要とするケースについては教職員間で情報を共有し、迅速に対応できた。また、学校巡回カウンセラーを保護者・児童に周知し、児童や保護者の気持ちに寄り添う対応に努めた。今後も一人一人に対するきめ細やかな支援と、児童とのよりよい関係づくりに努めたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>係活動や委員会活動の活性化を図り、児童の自己肯定感や自己有用感を高めていく活動を積極的に取り入れていく。今後も児童の創意を大切にするとともに、思いや願いを実現させようと、自ら自分を取り巻く環境に働きかけようとする意欲や行動を認め、価値付けることを大切にする。</li> <li>児童の現状について情報交換を密に行うとともに、支援を必要とするケースについては、教職員の共通理解を図りながら、家庭や関係諸機関との連携を図り、適切かつ迅速に対応できるように努める。これからも学校巡回カウンセラーとの連携を継続・強化する。</li> </ul>
8	<p>地域の教育力や学習環境を活用した特色ある教育活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域と目標を共有し、ともに進める学校づくり</li> <li>地域への愛着をもち、地域とともに歩む児童の育成</li> <li>地域の教育力や環境を生かした教育活動</li> <li>学校ウェブサイト等を活用した情報発信、学校公開の工夫</li> <li>学校評価による教育改善(学校教育推進会議等)</li> </ul>	<p>地域の教育力を活用することにより、学習の効果を一層高めることができた。1年の昔遊び体験では地域の方と遊ぶことを通して世代を越えた触れ合いを楽しむことができ、2年の地域巡りのインタビューでは地域の方との交流を通して地域への関心をもつことができた。3年の太鼓体験や6年の昔の殿町の様子や海苔づくりについての講話では、実際に地域の方とともに活動したり話を聞いたりすることで、児童の地域への愛着が深まったと感じている。児童アンケートでも「殿町小学校以外の講師の先生や地域の方に教えていただいた学習の中で『なるほど』『すごい』と思ったことはありませんか。」では、9割近くの児童が「あてはまる」「まああてはまる」と答えている。</p>	<p>地域の方に協力していただきながら、地域の人やものを「材」とした学習が戻ってきている。地域の方が協力的で、積極的に学習に関わってくださっている。さらに地域の教育力や環境を生かせるような学習内容を教育課程の中に位置付けたり、人材を確保したりすることに努めたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度より学校教育推進会議は学校運営協議会へと移行する。第1回の会合に教育政策室の担当者を招いて、学校運営協議会の趣旨説明を行い、地域の理解と協力を仰ぎながら発足に向けた体制づくりを丁寧に進める。</li> </ul>

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> <li>どの教室でも児童が真剣に授業を受けている姿を見て安心した。また、算数や外国語の授業では複数体制で先生方が指導していた。分からないところを教えてもらえ、よいと思った。</li> <li>GIGA端末の習熟度が高いことに驚いた。1年生の時から端末に慣れることで学習に有効活用できていると思った。発表したり調べものをしたりと、しっかり活用できていた。</li> <li>防犯という面で、こども110番の場所を知らない児童が増えているのが心配である。今一度、こども110番について役目や場所を含めて指導していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の主体的・対話的で深い学びを実現するために、話し合い活動を積極的に取り入れ、考えを発信したり友達の考えを受け止めたりする機会を意識的に設けた。また、GIGA端末を情報収集だけでなく、情報の整理分析や発信等、児童の情報活用能力を高めるためのツールの一つとして効果的に活用することができた。今後も児童が学ぶことの楽しさや意義が実感できる授業改善に向け、教員の研修や授業研究を実施し、授業力を高め合えるように努める。さらに、担任だけでなく少人数指導や専科教員、国際教室の担当者による取り出し指導など、複数の教員によるきめ細やかな指導を次年度も継続していきたいと考えている。</li> <li>支援教育コーディネーターを核として教職員で児童理解を図り、児童の現状や実態について情報交換を行った。必要な支援を校内で行ったり、関係機関と連携したりしながら児童や保護者の気持ち・要望に寄り添った対応に努めた。</li> <li>今年度は、地域の方との交流や外部講師による学習にも積極的に取り組んだ。児童の学ぶ意欲や地域への関心への高まりにつながったと感じている。今後も地域の材をさらに活用し、地域の教育力を生かせるような学習内容の位置付けや、人材確保を意識して、学習環境を整えていきたい。</li> </ul>